

平成19年度武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

団体名		社会福祉法人 武蔵野						
①	指標名	高齢者・身体・知的障害者の施設の定数確保			目標値	97.0%	実績値	97.0%
	過去の実績	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	100.0%	達成状況	未実施・未達成・達成
	(単位: )	別紙1の通り	別紙1の通り	別紙1の通り				
	取組内容	※19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①市のケースワーカー等と連携を強化して、入退所の事務をスムーズに行った ②他関係機関と連携して入所対象者を絞り込んだ						
一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ①武蔵野福祉作業所の移譲を受け自主事業として開設したが、将来の特別支援学校卒業生対策のため定員を多めにしたため全体の比率を押し下げたが、かろうじて目標を達成することができた ②定員に満たない施設もあるため、定員確保のため引き続き努力していきたい							
二次評価	平成19年度に東京都から委譲を受けた武蔵野福祉作業所については、委譲にあたり定数を60人から80人に増やしており、委譲初年度ということもあって定数確保の目標に対してマイナス要因となった。このような状況の中でも市のケースワーカーなどの連携を強化するなどして諸施設の入退所をスムーズに行うなど経営努力を行い、全施設の利用率を97%に保てたことは評価できる。しかし、障害者施設については国の基準により定数の弾力化が図られていること、一部の施設に利用率の低いものが見受けられることから、今後も一層の定数確保に努める必要がある。							
②	指標名	介護保険・自立支援費等収入の増加			目標値	534,784千円	実績値	586,787千円
	過去の実績	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	109.7%	達成状況	未実施・未達成・達成
	(単位: 千円)	519,562	500,848	455,552				
	取組内容	※19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①新規施設の武蔵野福祉作業所を除く、各施設の定員確保に努めた(別紙1参照) ②ゆとり又は空きベッド解消のため、ショートステイと併用して最大限に活用し利用率を高めた ③ゆとり又はデイは定員超過の判定が月単位となったことで曜日ごとに利用者を増やし前年度1割増を果たすことができた						
一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○介護保険は単価ダウンにもかかわらず、利用者増を推し進め、減収を最小限に抑えることができた ○支援センターの減収は法改正及び市の方針の変更によるものである ○自立支援費等収入は9割保障の導入、また特別対策の制度が始まり、各自立支援費施設は資金収支上昨年度とは逆に軒並み黒字施設となった							
二次評価	介護保険は単価が下がったにもかかわらず、ゆとりにおいて特養の空ベッドをショートステイと併用するなど効率的な運営を行ったこと、デイサービスの定数の弾力化に伴い利用者増を図ったことなどの経営努力により減収を最小限に抑えたことは評価できる。また、自立支援費等の収入に関しては、18年度は日額報酬の導入により、大きな減収となったが、19年度は9割保障制度の適用を受けたことで山びこ、大地、けやきなどの施設で収支が改善されている。今後は、自立支援法による事業体系に移行していない施設について、新体系移行後の報酬単価の変動が予想されるため、移行後のサービス体系について検討が必要である。							
③	指標名	人事考課・給与制度の整備及び正職員削減			目標値	106名	実績値	104名
	過去の実績	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	98.1%	達成状況	未実施・未達成・達成
	(単位:名) 正職員数	101	102	100				
	取組内容	※19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①給料表の改正(減額)を行ったが、人事考課を給与に反映するまでには至っていない ②正職員の補充を嘱託、臨時職員にしたり、施設長を兼任させることによって、職員数を減らすことができた ③新規事業を開始したが、極力正職員数を抑えた						
一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○正職員削減に関し、新規事業のために2人採用したので、目標に対しては実際は98人であり、大幅に削減できた							
二次評価	平成19年度は、武蔵野福祉作業所、障害者就労支援センターが開所したにもかかわらず、正職員の定数を4名増にとどめたことは評価できる。しかし、一方で利用者の増加などにより安全管理などについては今一層の注意を払う必要も高まっている。今後もウィズの移転・拡張、障害者総合センターの施設の拡充が予定される中、安全管理等については最大限の注意を払いつつ、正職員と臨時職員の役割分担の確立やアウトソーシングの活用などを含め、正職員の増加は極力抑えることが必要である。							

## 利用者数の推移

施設名 内容 定員数	平成19年度	達成率	平成18年度	平成17年度	平成16年度	平成15年度	平成14年度
けやき 身体障害者通所授産施設 20名	18名	90.0%	19名	18名	16名	15名	20名
大地 知的障害者通所授産施設 50名	49名	98.0%	50名	50名	50名	50名	47名
山びこ 知的障害者通所更生施設 40名	42名	105.0%	40名	40名	39名	40名	39名
ふれあい 障害福祉サービス事業(生活介護) 15名	(一日平均) 14.3名	95.3%	(一日平均) 12.1名	(一日平均) 10.7名	(一日平均) 10.4名	(一日平均) 11名	(一日平均) 11名
ウィズ こども発達支援室 12名	19名	158.3%	12名	13名	13名	17名	12名
やはたハウス 知的グループホーム 5名	5名	100.0%	5名	5名	5名	5名	4名
RENGA 重度身体グループホーム 5名	5名	100.0%	5名	名	名	名	名
福祉作業所 自立訓練・就労移行・就労継続B 80名	68名	85.0%	名	名	名	名	名
桜堤ケアハウス 軽費老人ホーム 30名	28名	93.3%	27名	28名	28名	28名	28名
ゆとりえ 特別養護老人ホーム 30名	30名	100.0%	30名	30名	30名	30名	30名
定数合計 287名	278.3名	97.0%	200.1名	194.7名	191.4名	196名	191名